

ていたハーンについて「ラフカディオ・ハーンは彼（モラエス）の最も敬愛せる作家であった」とも記されています。

末慶寺のご協力

本学の研究者の業績に基づいて展示会の方針を組み立てましたが、両者の共通点を実証する資料が必要です。このため、私たちは男子の墓所である末慶寺の第27世住職、鬼頭誠英師を訪ね、彼女の所縁の資料をお借りして出展することになりました。帯や櫛、お守り、便箋、自害に使った剃刀などの他、ハーンとモラエスがこの寺に贈った署名本や文書などもご提供いた



末慶寺山門

だきました。また、鬼頭住職にはこの展示会の記念講演会で「ハーンとモラエスと和田準然」のテーマでご講演いただくなど、大変なご協力を賜りました。

二つの観点をもった展示会

この展示会では、ハーンとモラエスの日本を題材とした作品の初版本を見ていただくと共に、この二人の心の接点となった男子を通して、明治期の一女性の生き方も確認していただくことが出来るなど、二つの観点を持った展示会になりました。

この展示会へ学内の学生・教職員の皆様、さらには毎年開催を楽しみにしてくださっている学外の方々にもお越しいただき、成功裏に展示会を終了することが出来ましたことに感謝を申し上げます。

おく まさよし(司書・事務長兼管理運営課長)

インターミッション 13

黒川利明 著

「ソフトウェア入門」

(岩波書店)

皆さんは普段何気なくパソコンを使ってレポートを作成したり、インターネットを閲覧したり、メールのやり取りを行っていることでしょうか。その時に使っている「Word」や「Internet Explorer」、「Hotmail」などを始めとして、さらには銀行や公共機関、交通機関などの各システムも全て「ソフトウェア」と呼ばれるものであり、我々の生活のあらゆる所に関わっています。ただこの「ソフトウェア」という言葉と「プログラム」、「システム」といった言葉の違いを説明できる方は数少ない事と思います。それは明確な意味の違いを見いだす事が言葉の上からでは難しいからです。

本書では、「ソフトウェア」と呼ばれるものについて、その成り立ち、作成の仕方、使い方など広域に説明されています。コンピュータの世界における「ハードウェア」との関連、「プログラム」、「システム」との微妙な意味の違いなどが説明されており、コンピュータの根幹の部分に関して理解する事ができるようになっています。専門用語も多く出てきますが、その言葉に対する説明もなされていますので、そういった専門用語を理解する事に大いに役立つ事と思います。

私たちの生活の中に「パソコン」、「ソフトウェア」といった存在はもはや切り離せないものとなっています。それらの使い方を学び、活用していく事が一番大切であり、本書に取り上げられている内容などは、それらに比べると少し専門的すぎるかもしれませんが。ただ本書は「コンピュータ」の根幹の世界を少しでも理解する手助けをしてくれる一冊であり、「コンピュータ」に関心のある方は是非一読してみてください。

(管理運営課 宮杉 浩)